

「男性医療人パパの会(ペンギンズ)5周年記念セミナー」を開催しました。

2020年2月27日(木)、本学狭間キャンパス臨床中講義室にて、男性医療人パパの会5周年記念セミナーを開催しました。男性医療人パパの会は、子育てをしながら働く男性医療人の情報交換の場として2015年度にスタートした会です。

発会5周年を迎える今回は、パパ料理研究者であり株式会社ピストロパパ代表取締役である滝村雅晴氏を講師にお招きし、「家族で食卓を囲む回数は有限 ～トモシヨク(共食)ノススメ～」と題し、パパ料理を推進する内容のお話をいただきました。講演は、まず、料理に関するクイズから始まりました。「大きじと小さじきちんとわかっていますか?」ということで3本の計量スプーンを使って見た目の大きさを判断してはいけないこと、容量がそれぞれ決まっていることの説明がありました。

滝村さんはお子さんが生まれたのをきっかけに、趣味ではないパパ料理を家族のために作り始めたそうで、14年間毎日、その日に作った料理をレシピ付きでご自身のブログにて紹介もしています。

講演の合間に、野菜の切り方の実演もあり、正しいまな板・包丁の使い方などを説明しながら、キュウリやニンジンなどの切り方と野菜を使った料理のレシピの説明がありました。どの材料・調味料もどこの家庭にもあり、簡単にできるものばかりで、参加者からも、「これならできそう」という声が上がっていました。滝村さんは、お子さんを病気で亡くしたことで、家族で食卓を囲める時間は限られているということ、是非知ってほしいと話されました。

最後に、「パパが料理を行えばママが自由になり社会とのつながりができます。働く時間を短くして、夕食を家族で囲むことで家族が輝き、良い地域・社会に繋がると信じていること、家族の笑顔を広め社会を変えていくことが、これからの自分の使命です。」との言葉で講演を締めくくられました。



「医学部女性教授の会」を発足しました 2020.2.10(月)

2020年2月10日(月)に「大分大学 医学部女性教授の会」を発足し、第1回目のミーティングを行いました。現在、本学医学部の女性教授は10名で、今回は看護学科から4名と、医学科から3名、合計7名の女性教授が参加しました。

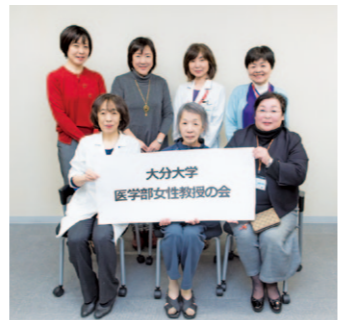
まず、看護学科長の原田千鶴教授より、「この会が、次世代の女性研究者の上位職登用のため、そしてそれに役立つネットワークを築ききっかけになってくれることを期待しています。」との挨拶がありました。

会では、若者の傾向についての話に花が咲き、医学科、看護学科ともに「キャリアアップを目指す若者が少ない」という悩みを抱えていることがわかりました。

また、以下の意見がありました。

- ・ロールモデルはいたが、数の少なさや状況の違いから参考にならず、とにかく自分がしたいように、できることをやるしかなかった。今は女性医師が増えたので、彼女たちのロールモデルになれるよう、気を配っている。
- ・キャリアアップしたい看護師が増えない原因は、修士課程に関心はあるけれども、強い後押しがないと前に進めない人が多いことや、臨床と研究が成り立つよう支援する体制を整えたが、これについてのPR不足が考えられる。
- ・病院の質を高めるためにも、多くの良い人材を組織全体で後押しして大学院に進学させてほしい。
- ・今の若い人は褒めないダメ。余程の事がなければ、目を瞑って褒める。これからの人は褒めて、人材を育成してほしい。

今後も定期的にミーティングを行い、次世代の女性研究者支援のための情報交換と活動をしてゆく予定です。



前列左から、松浦教授、岸田教授・原田教授
後列左から、三重野教授、井手教授、中川教授、寺町教授

第9回 中塚医学賞に研究サポーター事業を利用した研究者が選ばれました。

2019年10月1日(火)、第9回中塚医学賞(大分大学医学部研究表彰)の表彰式及び受賞者セミナーが行われました。本賞は、大分大学医学部における若手研究者の研究の活性化及び進展を図ることを目的として設けられたものです。

今回は、研究サポーター事業を利用した、皮膚科学講座 竹尾直子先生が生命科学・医学専門分野に、基盤看護学講座 岩本祐一先生が看護学専門分野に選ばれました。



受賞コメント

皮膚科学講座 竹尾 直子 先生

この度は中塚医学賞を頂けて大変光栄です。賞を頂いた論文は、食品や化粧品などの赤色着色料に使用されるコチニール色素によってアナフィラキシーを生じた症例を第1子妊娠中に学会発表し、育児休暇中に症例論文を書き、2人の子供を抱えて職場復帰した後に臨床研究として発展させた内容をまとめたものです。保育園のお迎えの時間から逆算しながらギリギリの時間まで研究をし、慌ただしい日々の中、多くの先生方に助けてもらいながら、6年の歳月をかけてどうにか論文文化に辿りつきました。

育休からの復職後、職場に自分の居場所が無いように感じられ、辛い時期もありましたが、この臨床研究は大変ではありましたが、心の支えになりました。この研究を通じて、他大学の、育児をしながら第一線で活躍している女性医師と知りあえたことも、大きな励みになりました。そして、臨床や医局長業務と平行して研究を継続できたのは、男女共同参画推進室から派遣して頂いた研究サポーターの方々のお陰でもあります。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。



受賞コメント

基盤看護学講座 岩本 祐一 先生

今回、大変光栄なことに、第9回中塚医学賞という身に余る賞をいただくことができました。思えば6年前、働く環境が大きく変化し、教育という現場で右も左も分からないまま必死に過ごしていた日々が今でも鮮明に蘇ります。と同時に、その時には気づけていなかった周囲の様々なサポートがあったこと、そのことによって今の自分があることをつくづく実感しています。その中でも大きなサポートとなったのが、男女共同参画推進室の研究サポーター事業でした。私は男性(父親)という立場ではありましたが、その立場から子育てに参加したいと強く願っていました。ただ、着任した当時は時間的にも気持ちの面でも余裕がなく、この研究サポーター事業によって支えられた面は大きかったと感じます。

いまだ試行錯誤の毎日ではありますが、限られた時間をいかに有効に活用できるかを少しずつ考えられるようになり、教員として充実した日々を過ごしています。まだまだ「若手」と呼ばれる立場ではありますが、それに甘んじることなく仕事と育児を両立しつつも、様々なことに対してチャレンジングな姿勢でいたいと感じています。

大学院進学奨励金を利用した女子大学院生が工学研究科の研究科長表彰を受けました。

本学大学院工学研究科の修了にあたって各コースごとに選出される工学研究科長表彰に、工学専攻電気電子工学コースの戸田吉保さんが選ばれました。戸田さんは、その研究業績が認められ同コースの首席となり表彰を受けるものです。また、当室が次世代の理系女子学生を増やすために実施している多くのリケジョイベント(出前講義・座談会・大学開放イベントなど)に積極的に参加し、高校生に自らの経験や研究内容などを伝える活動もしてくれました。この活動も彼女の意識向上や成長に繋がっていることは大変うれしいことです。

戸田 吉保さんのコメント

近年、企業では女性目線からの商品開発を求められていることから女性の活躍の場が広がっており、大学で理系に進む女性の割合も増えています。

大分大学の理工学部では4年生になると研究室に所属します。私はプラズマを利用して金属部品の寿命を延ばす(耐摩耗性などの機械特性を向上させる)研究をしました。寿命を延ばすため空気中に多く存在している窒素を利用した処理(窒化処理)は真空下で行われますが、私達の研究室では大気圧下での処理の産業応用を目指した研究を行っています。窒化処理は金型や自動車部品などの産業機械部品に利用されており、窒化処理の新しい方法は未来のもの作りの可能性を拓けます。研究の成果は他大学や企業の方々に発表しますが、発表は国内だけでなく国外に訪れることもあり、様々な場所や人と出会うことができます。

理系と一言で言っても生物系や看護系、薬学系、そして工学系など様々な分野があります。私自身高校で物理は苦手でしたが、物理の授業の中でも興味を持った分野の進路を選び、充実した大学生活を送りました。苦手な教科でもその中で気になる授業内容があるのなら、その分野を大学で学んでみるのもどうでしょうか。また進路で迷っているのなら、大学で行うオープンキャンパスに訪れてみてはいかがでしょうか。そこで興味ある分野がきっと見つかります。



出前型の男女共同参画入門講義つき理系女性研究者との座談会

2014年度から女子中高生およびその保護者を対象に、出前講義形式で、①男女共同参画入門の講義、②研究者による理系研究の魅力発信(講義や実験)、③理系女子就職の変遷についての講演、④理系女性研究者(教員・大学院生)との座談会を実施しています。今年度は、大分県立佐伯鶴城高等学校、九州産業大学附属九州高等学校、大分市立城南中学校、大分市立賀来小中学校、大分市立植田東中学校で開催し、合計344名の参加がありました。参加者からは、「理系についての理解が深まった。」「ものづくりをする女性が必要とされていることを知れました。」等の感想が多くあり、理系への興味が深まっていると感じられました。



湿気とりでアイスキャンディーを作る実験



光と色の不思議についての講義



スターリングエンジンの実験

◎取り組み企画別参加者数等

実施日	実施場所	募集等	当日参加者	
		対象者	学生	保護者・教員
7月9日(火)	大分県立佐伯鶴城高等学校	女子高校生 保護者・教員	171	111
7月13日(土)	大分市立城南中学校	女子中校生 保護者・教員	12	1
11月16日(土)	大分市立賀来小中学校	女子小中校生 保護者・教員	5	2
12月11日(水)	九州産業大学附属九州高等学校(福岡県)	女子高校生 保護者・教員	35	0
12月14日(土)	大分市立植田東中学校	女子中学生 保護者・教員	7	0

機械・電気電子・応用化学の実験体験会 2019.12.21(土)

2019年12月21日(土)、大分県内の女子中高生と保護者を対象に、理工学部の機械、電気電子、応用化学の「ものづくり実験」を体験してもらった実験体験会を開催しました。

今年度は、ロボット制御プログラムや3Dプリンタ、VR(バーチャルリアリティ)システム、ドローン実演を体験する機械コース、風力発電機の試作に挑戦しメカニズムを体験する電気電子コース、インジゴの合成と巾着袋の建築めに挑戦する応用化学コースを準備し、女子中高生26名、保護者11名が理系分野の魅力に触れました。参加者からは、「大学生が親切で質問にも丁寧に回答してくれました。」「とても楽しくて時間を忘れてしまいました。」等の感想が寄せられ楽しく有意義な時間を過ごしてもらえたようです。



VR(バーチャルリアリティ)体験



風力発電機作り



巾着袋のインジゴ染め



「リケジョ」
応援事業の紹介
リーフレットを
作成しました。

以下のサイトでは、より詳細な
イベント報告記事を掲載しています。
ぜひご覧ください☆



イキイキ!理系女子♡(大分大学リケジョ応援サイト)
http://www.rikejo.oita-u.ac.jp/rikejo_wpv1/



オープンキャンパス同時開催 「女性研究者と語ろう」2019.8.9(金)

2019年8月9日(金)、「女性研究者と語ろう」を大分大学オープンキャンパスに併せ、旦野原および挾間の両キャンパスで開催しました。旦野原キャンパスでは大学院生が、挾間キャンパスでは室員の先生や附属病院で勤務する現役の女性医師たちが、立ち寄られた高校生や保護者の方々と歓談しました。



女子高校生の質問に答える大学院生

大分大学開放イベント2019「女性研究者の学会派遣報告展示」2019.11.4(月)

2019年11月4日(月)の大分大学開放イベント2019の企画として、「女性研究者の学会派遣報告展示」を開催しました。当室が行っている学会派遣支援を受けた女性研究者(教員・大学院生)が学会で発表した研究内容や学生生活について作成したポスターを展示し、来場された地域の方や中高生などからの疑問や質問に丁寧に答えました。



女性研究者の説明に耳を傾ける地域の方々

タイの理系女子(リケジョ)11名を含む13名の高校生との交流会 2019.11.7(木)

「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」(「さくらサイエンスプラン」)に本学医学部とタイのSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の高校生との交流事業が採択され、2019年11月5日から7日にタイのリケジョを含む高校生13名と引率教員1名が大分大学を訪れ、大分大学の研究者との交流会を行いました。

タイの女子高校生2名、そして、タイから本学に留学している大学院生のラサダさんによる研究発表と質疑応答が行われました。その後は、タイと日本の教育システムの違いについてや、将来の夢や進路などについて、英語でのフリートークを楽しみました。

本学の学生と留学生の参加も多く、また、タイの高校生たちの姿勢も積極的で、英語でのトークも大変盛り上がり、楽しい交流会となりました。



留学生や本学教員との交流を楽しむタイの女子高校生

男女共同参画入門

2019年度後学期の全学共通科目授業として「男女共同参画入門」を開講しました。今年度の授業内容は一覧のとおりです。学内教員のみでなく、アイネスや労働局、ニッコン(株)、あまべ文化研究所からも講師を招きバラエティーに富む講義を行いました。また、授業の締めくくりとして、グループワークを実施し、8グループに分けた各グループごとにそれぞれ4つの課題のうち1つを担当しポスターを作成した上で、プレゼンテーションを行いました。教職員による審査を行い、最優秀賞・優秀賞・審査員特別賞・ポスターデザイン賞の授与がありました。この発表会を通して、半年という短期間の講義でしたが、若い学生達が男女共同参画に対する意識や知識を深め、自分達を取り巻く実社会における男女共同参画の現実とそのあり方について考察することができたことがわかりました。



グループワークの成果を発表する学生



グループワークで作成したポスターの展示

2019年度 全学共通科目 授業科目名:男女共同参画入門

	日付	授業名	授業講師
1	10月2日	オリエンテーション 私のライフプラン(1)	大下 晴美(医)
2	10月9日	私のライフプラン(2)	大下 晴美(医)
3	10月16日	ワーク:ライフ・バランスと男女共同参画	大分労働局雇用環境・均等室長 藤原 光熙
4	10月23日	医学から見た男女共同参画	中川 幹子(医)
5	10月30日	行政から見た男女共同参画	大分県消費生活・男女共同参画プラザ(株) 所長 石松 久典
6	11月6日	私のキャリアを通じて伝えられること	ニッコン(株) 代表取締役社長 佐藤 宝恵
7	11月13日	世界の多様性から見つめ直す日本と自分	あまべ文化研究所 代表 岩佐 礼子
8	11月27日	経済・経営学的視点からの男女共同参画	渡邊 博子(経済)
9	12月4日	男女共同参画の基礎知識	城戸 照子(経済) 青野 薫(経済)
10	12月11日	キャリアを考える	堤 紀子(理工)
11	12月18日	グループワーク:(1)オリエンテーション	大下 晴美(医)
12	1月8日	グループワーク:(2)	城戸 照子(経済)
13	1月15日	グループワーク:(3)	城戸 照子(経済)
14	1月22日	グループ発表(1)予選	大下 晴美(医)
15	1月29日	グループ発表(2)最終審査	大下 晴美(医)